

【第4号議案】 事業計画の件

2023年度事業計画

・国際会議開催事業

中長期的に、IDWは、現状の分野を維持するとともに、新たな分野を取り込みながら、規模を維持する、または、拡大していく方針である。

2023年は、12月6日から8日の3日間、これまでと同様に一般社団法人映像情報メディア学会（ITE）と The Society for Information Display（SID）の主催で、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて第30回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW'23）を開催する。組織委員長は伊達 宗和（徳島文理大学）、実行委員長は橋本 信幸（日本女子大学）、プログラム委員長は石鍋 隆宏（東北大学）である。国際会議の目的・趣旨・開催の形態は、おおよそこれまでのものを踏襲し、これまでと同様な成功を収めることを目指す。IDW'23は、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターでコロナ禍前の対面形式の開催に戻す。また、Scope制を継続する。研究・開発・産業の動向にしたがい、Topical Session（TS）や Special Topics of Interest（STI）を積極的に活用する。2023年度は、オンサイト開催をできるだけ盛り上げるために、ディスプレイ技術を広げる“イメージング技術”のトピカルセッション（TS）を新設するとともに、メディカルイメージング関連の特別イベントやキーノート講演とも連携してIDW全体で新たな分野の取り込みに向けて盛り上げる。また、昨年新設したメタバース関連TSと展示は継続し、論文数増、参加者数増、展示件数増による収入増を目指す。2023年度も新たな取り組みや現地開催による支出増を想定して国際会議運営給付金を予備費も含め予算化する。

・記念事業その他

2019から導入したIDWの独自の表彰制度“Kobayashi-Uchiike-Mikoshiha Prize”を継続する。30回記念業務を実施する。

中長期計画

・国際会議開催事業

IDW'22以降の中長期的開催方針や施策について、IDWはSmart Society（Society5.0）に向けて新しい分野を取り込むことで拡大を目指すという基本方針をもとに、IDW'23から取り組むイメージング、IDW'22から取り組んだメタバース、継続して取り組んでいるAIなどを対象に実行した結果を参考にして、さらなる参加者数や論文の増加に向けて、新たな中長期戦略を策定するとともに、IDW'24、'25に向けて具体化していく。

以上